

焼物ワーキング部会の検討状況

令和 7 年 9 月



2. 製作物別の進捗状況（概要）

- ・ 焼物WG部会における製作物別の進捗状況は下表の通りである。
- ・ 各製作物、県および国における製作工程をすべて完了し、首里城正殿に設置済み。

番号	製作物名称	国への引渡期限	新たな知見	状況
1	龍頭棟飾（大棟）	令和7年4月頃	高精細化の古写真による造形修正	国へ引渡し済
2	龍頭棟飾（唐破風）正面（胴体含む）	令和7年4月頃	高精細化の古写真による造形修正	国へ引渡し済
3	降棟 鬼瓦	令和7年4月頃	高精細化の古写真による造形修正	国へ引渡し済

2. 製作物別の進捗状況（引渡し済みの製作物）

・龍頭棟飾（大棟）の寸法

長さ：約3,200 mm 幅：約900 mm 高さ：約1,600 mm

龍頭棟飾（大棟）（吽形）



龍頭棟飾（大棟）（阿形）

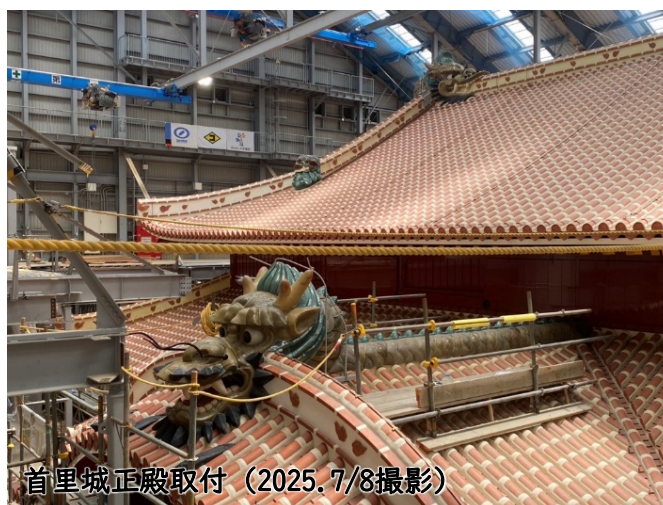


2. 製作物別の進捗状況（引渡し済みの製作物）

- 龍頭棟飾（唐破風）の寸法

長さ：約2,400 mm（※胴体4,900mmを除く） 幅：約1,000 mm 高さ：約1,800 mm

龍頭棟飾（唐破風）



2. 製作物別の進捗状況（引渡し済みの製作物）

・降棟 鬼瓦の寸法

長さ：約720 mm 幅：約590 mm 高さ：約1,000 mm（※阿形が約40mm高い）

降棟 鬼瓦（吡形）



首里城正殿取付（2025. 5/22撮影）

降棟 鬼瓦（阿形）



首里城正殿取付（2025. 5/22撮影）



首里城正殿取付（2025. 5/22撮影）



首里城正殿取付（2025. 5/22撮影）

3. 首里城正殿設置に伴う監修報告

- ・焼物WG部会で対象の「龍頭棟飾（大棟）」「龍頭棟飾（唐破風）」「鬼瓦」については、首里城正殿への設置後に、焼物WG部会の学識者等による造形確認を実施。

2025年5月22日 龍頭棟飾（大棟・吡形）および鬼瓦

2025年6月24日 龍頭棟飾（大棟・阿形）および龍頭棟飾（唐破風）

- ・造形および色味に関して修正の必要はなく、仮組み監修時の内容どおりに設置されていることを確認。



鬼瓦確認の様子（2025.5/22撮影）



龍頭棟飾（大棟・阿形）確認の様子（2025.6/24撮影）

【参考】龍頭棟飾の製作(外觀形状復元)工程

- 龍頭棟飾の造形は、今回高精細化された鎌倉古写真(大正11年撮影)をもとに、監修を受けながら、唐破風は1/5の粘土原型から製作し造形を確認。石膏原型は大棟については前回の複製、唐破風は新規製作し、拡大作業がしやすいよう、3Dスキャンを行った。
- 焼成による収縮等を考慮し概ね110%サイズの下地型を木製架台の上に製作。
- 石膏凹型を下地型の上に重ねて製作し、それを裏返して陶土を叩きこみ「陶土型起こし」の作業を実施。その後、石膏凹型から離型した陶片は、型抜きを考慮し下地型で甘くしていた箇所彫込み、内側に裏足の形状を付ける等しつつ、水分調整を適切に行い乾燥を進め、素焼き・施釉・焼成を実施。
- 釉薬は、県産原料を主体に用いて、色味は鬼瓦とも整合性を持たせた。
- 陶片を複数個組み合わせたの仮組を順次進めつつ、個々の陶片の微調整を行いながら、陶片等の引渡しを順次行った。
- 引渡し後に、複数個組み合わせた陶片の内側にGRC(ガラス繊維強化セメント)を打設し、屋根の上で鋼製架台を覆うように固定して設置。

■陶土

	配合比
谷茶土	38.5%
ハイシチャー土	38.5%
大物土	15.5%
シャモット	7.5%

■陶片

	大棟	唐破風
顔	52	58
鱗	42	34
タテガミ・背びれ	40	60
口髭・顎髭	24	19
舌	-	3
目	2	2
歯	18	11
歯茎	18	11
牙	6	6
計	202	204



粘土/
石膏原型
製作
(1/5)

下地型
製作
(110%程度・
発泡スチロール)

石膏凹型
製作
(型取り)

陶土
パーツ別
型起こし
(内側貼付・離型
・加工・乾燥)

素
焼
き

施
釉

焼
成

陶片調整
(仮組含む)

GRC一体成形
屋根骨組との
固結・接合
避雷導体調整

約800℃

約1,210℃

【参考】鬼瓦の製作(外観形状復元)の製作工程

- 鬼瓦の造形は、今回高精細化された鎌倉古写真(大正11年撮影)をもとに、阿吡形とも見直しが必要なため、監修を受けながら、焼成による収縮等を考慮し概ね110%サイズの粘土原型を製作。
- 鬼瓦の陶土は、令和5年にうるま市内にて確認された“石川白土”の活用を見据えて検討を開始したが、古写真より1.1倍程度大きくなったことなどがあり、平成復元と同様の成形方法だと、焼成によるひび割れの発生等が確認されたことから、分割での成形や陶土配合の見直しを行い、手びねりで、上下2分割で製作を行った。
- 釉薬は、一般的な器での施釉と違い凹凸のある立体に多数の色を隣接して用いることから、配合や施釉手順・焼成方法などを検討した。
- 分割での整形となったことや屋根への設置作業性などを考慮し、素焼き・施釉・本焼成後に、龍頭棟飾と同様にGRC(ガラス繊維強化セメント)で内部補強を行った。
- 首里城正殿においては、赤瓦の上に土台を設け、鬼瓦下部内側の底面のGRCが土台に接地するようにしつつ、上下二分割した鬼瓦の接合時に向きの整合性等を確認し設置。

■陶土

	配合比
石川白土	15.0%
谷茶土	15.0%
超大物土	70.0%



粘土原型
製作

石膏原型等
製作
(110%)

造形・
施釉の
検討

手びねり
成形

素
焼
き

施
釉

焼
成

G R C
内側補強

固定
据付

約900℃

約1,200℃